

# STNet 中期戦略



自らをシフトして、  
未来を創る



自らをシフトして、  
未来を創る



## 「SHIFT FORWARD」に込めた想い

- 「**SHIFT**（意識や価値観の転換）」と「**FORWARD**（前進・挑戦）」を組み合わせたこの言葉には、「変化を恐れず、未来へ向かって進化する」という強い意志を込めています。
- 従来のやり方から脱却する変革の主演は、私たち一人ひとりです。私たちは、互いに尊重しあい、支えあう仲間と、安心して働くことができる環境の中で、共に挑戦し、共に次のステージへシフトすることで、お客さまや当社の未来を創り上げていきます。
- AIなどのデジタル技術を活用した業務の革新と人材への投資を絶え間なく行い、社会インフラの担い手としてお客さまから寄せられてきた信頼を深めつつ、新たな取り組みにも積極的に挑戦し、お客さまに寄り添って課題を解決するパートナーとして共に成長・進化していきます。

- 今後5年程度先（2030年度頃）においては、従来の事業の前提を根本から覆すような変化が起きることが想定され、当社もこの大きな変化に対応するために、次のステージへのシフトが求められる。

### 社会の変化

- 少子高齢化と人口減少が更に進行し、マーケットが飽和、もしくは縮小していく。
- 人件費や物価の上昇が継続する。
- 働く人に配慮した企業経営が更に普及し、それが不十分な企業は淘汰される。
- サイバー攻撃は一層巧妙化、深刻化していく。
- 気候変動と環境問題は引き続き大きな課題となる。

### お客さまの変化

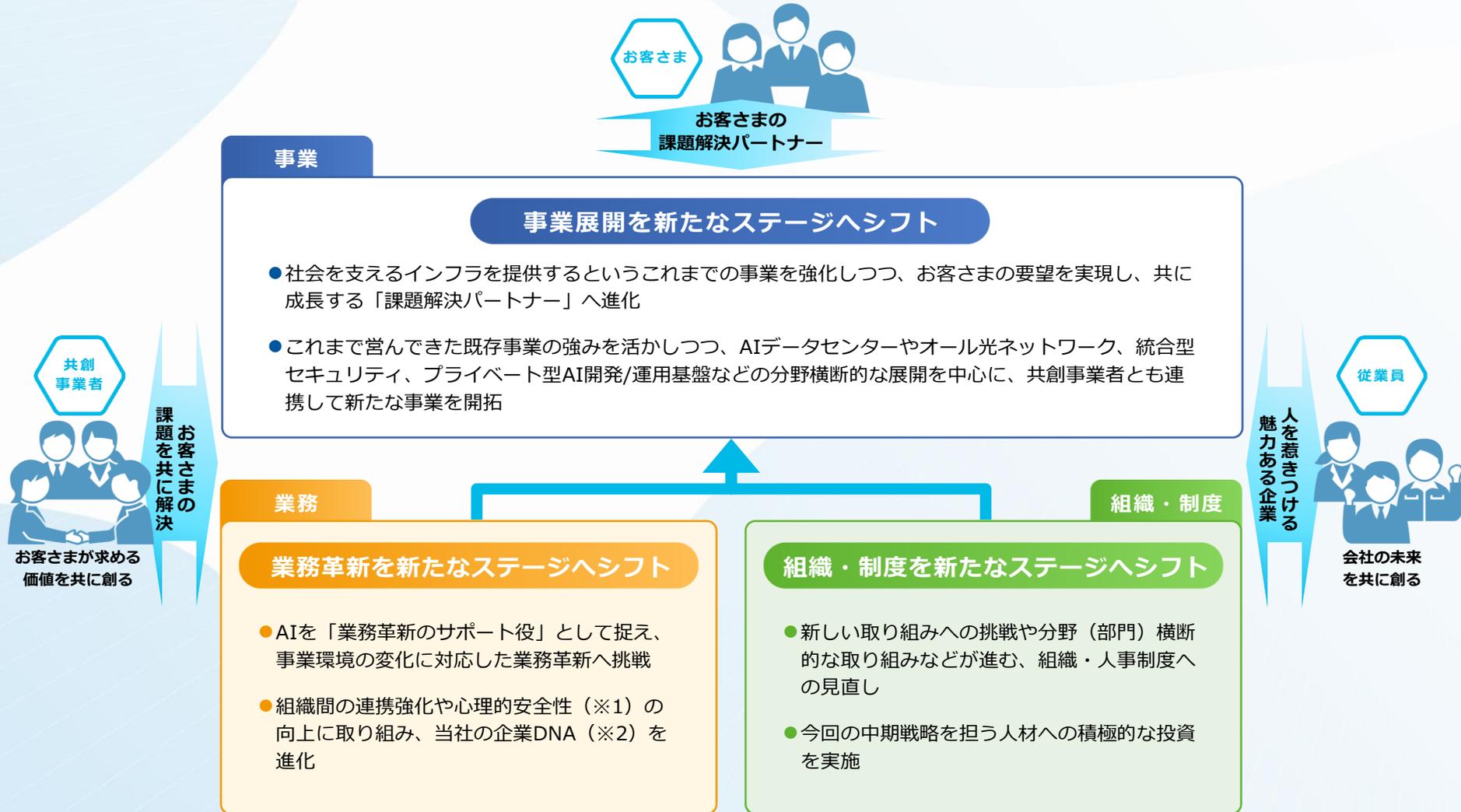
- 企業や自治体は、生成AIなどのデジタル技術やデータの利活用によるビジネス変革に取り組む必要に迫られる。
- お客さまからは、複雑化するIT技術への対応をワンストップで解決したいとの要望がより強くなる。
- 事業運営に大きなインパクトを与えるサイバー攻撃への対応など、セキュリティ対策への需要が拡大する。

### 技術の変化

- データを超高速に処理するGPUサーバーなどの性能が上がり続け、より高度なAIの開発が進む。
- そのAIは、デジタル空間だけではなく現実空間（ロボット等）と融合し、適用シーンが拡大する。
- オール光通信とサーバー連携技術の進展が、データセンター事業の在り方を大きく変える。

社会や技術の大きな変化に伴い、お客さまのビジネスや生活において構造的かつ不可逆的な変化が起こると考えられることから、当社においてもこれまでの延長線上の取り組みだけではなく、次のステージへ大きくシフトする必要がある。

- 全社で3つの「シフト」に果敢に挑み、事業、業務、組織・制度を新たなステージへ高める5年間とする。



※1. 自分の意見や気持ちを安心して発言できる状態  
 ※2. 共有・継承してきた独自の価値観や行動規範

- 既存事業の強化に取り組みつつ、新たな分野横断的な展開に取り組むことで、お客さまの「課題解決パートナー」へと進化していく。

### 新たな分野横断的な展開へのシフト

- データセンターと通信の両事業を手掛ける当社の強みを最大限に活かし、AIの開発や利活用を支える基盤となるAIデータセンターと超高速・低遅延なオール光ネットワークを組み合わせたAI時代に求められる次世代のサービスを展開する。
- 通信とセキュリティを融合した統合型セキュリティや、インフラとアプリケーションを組み合わせたプライベート型AI開発/運用基盤などを候補に、複数の分野を融合し、お客さまの課題を解決するサービス/ソリューションの立ち上げを進める。
- 上記の展開については、共創事業者と共に取り組んでいく。

相互に連携した展開により、  
事業展開を新たなステージへシフト

### 既存事業分野におけるシフト

ピカラ

- 以下の取り組みにより顧客基盤の更なる拡大を目指す。
  - ・ 既存のお客さまとの接点強化を図り、長期利用のお客さまを増やす。
  - ・ 新規のお客さまとの契約を増やすために、デジタルマーケティングの強化など、これまでの販売手法からの変革を図る。
  - ・ 重要なパートナーである協業ケーブルテレビ会社と共同で新たな取り組みを進め、共に成長する。

データセンター  
クラウド

- パワリコのハウジングは、お客さまのニーズの変化に的確に対応する。また、左記のAIデータセンターとの連携を図り、当社DC事業の中核拠点として展開していく。
- クラウドは、ターゲット層を明確にし、お客さまニーズにより早く対応し、価値のあるサービスを開発する。

システム  
開発

- 開発・運用業務については、高品質かつ着実に対応しつつ、お客さま満足度の向上を目指す。
- 加えて、生成AIをはじめとする最新技術を活用して業務の効率化や生産性向上などの業務革新に取り組む。

通信

- 複数の通信ネットワークを統合した次世代の通信ネットワークへの進化に向けた対応を進める。
- オール光ネットワークは、将来の拡がりを見据え、左記のAIデータセンターとの展開を皮切りに、積極的に取り組みを進める。

- 本中期戦略の数値目標としては、2030年度の「営業利益額」を設定する。
- また、数値目標（営業利益額）とは別に、将来の成長に向けて経営資源を戦略的に配分していくことや、目安となる額を明確にするために「戦略投資額」を設定する。

## 数値目標

営業利益額  
110億円  
(2030年度)

## 戦略投資

投資額  
200億円程度  
(5カ年累計)